

平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成28年10月24日

上場会社名 キーコーヒー株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2594 URL <http://www.keycoffee.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柴田 裕  
 問合せ先責任者(役職名) 財務部長 (氏名) 三上 武善 (TEL) 03-3433-3311  
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日 配当支払開始予定日 平成28年11月25日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・業界紙向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	32,320	△1.3	1,315	69.7	1,418	46.8	901	55.4
28年3月期第2四半期	32,752	18.9	775	3.4	966	△2.2	579	17.4

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 680百万円(113.9%) 28年3月期第2四半期 318百万円(△43.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	40.54	—
28年3月期第2四半期	25.56	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	49,706	36,190	71.1
28年3月期	48,447	35,709	72.0

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 35,355百万円 28年3月期 34,862百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	8.00	—	9.00	17.00
29年3月期	—	9.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	65,000	0.1	1,800	70.8	1,900	38.3	1,200	59.6	53.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細につきましては、本日開示いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料の4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期2Q	22,689,000株	28年3月期	22,689,000株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	457,945株	28年3月期	457,945株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期2Q	22,231,055株	28年3月期2Q	22,681,055株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日までの6ヶ月間）におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融緩和政策の継続により緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、中国をはじめとするアジア新興国や資源国経済の減速、英国のEU離脱問題に伴う世界経済の不確実性の高まりや、円高の進行、株式市場の低迷など、景気の先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

コーヒー業界におきましては、業績に大きな影響を及ぼすコーヒー生豆相場が、世界最大の生産国であるブラジル生産地の天候不順による来年度の生産量減少懸念などにより、当期に入り価格が20%以上も上昇しており、予断を許さない状況にあります。

このような状況の下、当社グループはコーヒーの持つ魅力を生活者にお届けし続けるという企業使命を果たすため、「品質第一主義」の経営理念に基づいて、「ブランド強化」、「収益力の強化」及び「グループ連携強化」を3つの柱とし、新たな事業領域の開拓、生活者のニーズにお応えする新商品の開発やお取引先との絆を深める企画提案型の営業活動を継続して行いました。

また、世界的なコーヒー関連事業における非営利の研究機関である「World Coffee Research」（本拠地：米国 テキサス州）の活動に、日本初のゴールドメンバーとして参画し、高品質コーヒーの安定供給、生産者の経済的、社会的な生活向上と未来に向けたコーヒー産業の発展などの活動への協力を開始いたしました。

業績につきましては、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は、323億20百万円（前年同期比1.3%減）、営業利益は13億15百万円（同69.7%増）、経常利益は14億18百万円（同46.8%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は9億1百万円（同55.4%増）となりました。

セグメントの営業概況は次のとおりであります。

#### (コーヒー関連事業)

業務用市場では、「トアルコ トラジャ コーヒー」や「氷温熟成珈琲」、世界各地の選りすぐりのコーヒー農園で生産されたスペシャルティコーヒーなど、差別性のある付加価値の高い商品の拡販活動を推進しました。また、お取引先への支援策として、世界3大カレーによる「プレミアムワールドカレーフェア」を実施するとともに、フルーティで彩り豊かな「シュクランジュ フルーツケーキ」などの新商品を発売し、ラインアップの充実を図りました。

家庭用市場では、産地と品質を厳選したシングルオリジンコーヒー「プライムオリジンズ」シリーズにLP（ライブパック）豆製品を発売、また、機械も電源も不要で簡単にエスプレッソタイプのコーヒーが作れる革新的商品「PUSH PRESSO（押すプレッソ）」を発売し、認知促進、拡販活動に努めました。主力の「グランドテイスト」シリーズ及び簡易抽出コーヒー「ドリップオン」シリーズは、配荷拠点の拡大と積極的な販促活動が奏効し、両シリーズとも前年を上回る実績となりました。ギフト商品では、素材や味わいにこだわり、「氷温熟成珈琲アイスコーヒーギフト」など人気の飲料ギフトを中心に全35アイテムをラインアップしましたが、販売実績は前年を下回る結果となりました。

お取引先へのカフェ開業支援として取り組んでおります、さまざまな立地環境に出店可能なパッケージカフェ「KEY'S CAFE」は4店舗増加し、導入されている店舗数は40店舗になりました。

業績につきましては、売上面では業務用、家庭用市場が前年実績を上回りましたが、原料用市場では販売数量が伸長したものの、コーヒー相場と連動した取引の影響により前年を下回る結果となり、全体では微減収となりました。一方、利益面では前年実績を上回り、増益となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるコーヒー関連事業の売上高は280億5百万円（前年同期比0.3%減）、営業利益は14億74百万円（同53.4%増）となりました。

(飲食関連事業)

株式会社イタリアントマトでは、春限定「トマトクリームとバジルソースの2種の Pasta」の販売や、夏限定「フローズンドリンク グラニータフェア」、「コールドパスタフェア」など季節のメニューフェアを実施しました。また、「挑戦・革新・団結」をスローガンに、将来に向けた基盤作りを推し進める方針の下、国内では富山市に「カフェジュニア ユメタウン総曲輪(そうがわ)店」や、世田谷区下北沢には、本格的なサンドイッチとコーヒー、スイーツを各種取り揃え、夕方以降はビストロメニューとアルコール類も提供する新業態店舗「PANES HOUSE(パーネズハウス)」を出店しました。海外では台湾に「ケーキショップ 台北統一時代店」、香港に「フェリ・ブール イオンコーンヒル店」を出店するなど、国内外に5店舗を出店する一方、不採算店の閉鎖を進め、店舗数は263店(直営店61店、FC店202店)となりました。

業績につきましては、株式会社イタリアントマトにおいて不採算店の整理を進めたことなどにより売上面では前年を下回る結果となりましたが、利益面では主要コストである原材料費及び人件費の効率的な運用により改善を図っております。

この結果、当第2四半期連結累計期間における株式会社アマンドを含めた飲食関連事業の売上高は24億17百万円(前年同期比6.1%減)、営業損失は41百万円(前年同期は44百万円の営業損失)となりました。

(その他)

その他事業の当第2四半期連結累計期間における売上高は18億97百万円(前年同期比9.3%減)、営業利益は1億91百万円(同45.9%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は前連結会計年度末に比べて12億58百万円増加し、497億6百万円となりました。

流動資産は19億91百万円増加し、278億98百万円となりました。これは現金及び預金(14億43百万円増)、有価証券の増加(17億円増)、原材料及び貯蔵品の減少(8億25百万円減)などによるものであります。

固定資産は7億32百万円減少し、218億8百万円となりました。償却が進んだことなどにより、有形固定資産は2億55百万円、無形固定資産は21百万円それぞれ減少しました。投資その他の資産は投資有価証券の減少(3億33百万円減)などにより4億56百万円減少しました。

(負債)

負債は前連結会計年度末に比べて7億77百万円増加し、135億15百万円となりました。

流動負債は前連結会計年度末に比べて10億27百万円増加し、110億81百万円となりました。これは支払手形及び買掛金の増加(6億82百万円増)などによるものであります。

固定負債は2億50百万円減少し、24億33百万円となりました。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べて4億80百万円増加し、361億90百万円となりました。これは利益剰余金の増加(7億1百万円増)などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、平成28年5月13日に公表しました業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日（平成28年10月24日）公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。これによる損益に与える影響額は軽微であります。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,803	7,246
受取手形及び売掛金	10,825	10,791
有価証券	300	2,000
商品及び製品	1,649	1,613
仕掛品	224	181
原材料及び貯蔵品	6,088	5,263
繰延税金資産	311	311
その他	731	509
貸倒引当金	△28	△20
流動資産合計	25,906	27,898
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,447	5,338
機械装置及び運搬具（純額）	2,169	1,990
土地	6,334	6,334
その他（純額）	658	690
有形固定資産合計	14,610	14,354
無形固定資産		
のれん	281	254
その他	292	299
無形固定資産合計	574	553
投資その他の資産		
投資有価証券	5,461	5,128
長期貸付金	106	95
繰延税金資産	38	54
差入保証金	1,485	1,370
その他	481	463
貸倒引当金	△216	△211
投資その他の資産合計	7,356	6,900
固定資産合計	22,540	21,808
資産合計	48,447	49,706

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,153	6,835
短期借入金	47	224
未払金	1,708	1,468
未払法人税等	571	548
賞与引当金	572	598
その他の引当金	2	2
その他	997	1,402
流動負債合計	10,053	11,081
固定負債		
長期借入金	100	151
繰延税金負債	170	125
再評価に係る繰延税金負債	478	478
その他の引当金	2	2
退職給付に係る負債	1,038	975
資産除去債務	311	253
その他	582	446
固定負債合計	2,684	2,433
負債合計	12,737	13,515
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,628	4,628
資本剰余金	5,040	5,040
利益剰余金	28,916	29,617
自己株式	△891	△891
株主資本合計	37,693	38,395
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	860	677
土地再評価差額金	△3,545	△3,545
為替換算調整勘定	△4	△3
退職給付に係る調整累計額	△142	△169
その他の包括利益累計額合計	△2,831	△3,039
非支配株主持分	847	834
純資産合計	35,709	36,190
負債純資産合計	48,447	49,706

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	32,752	32,320
売上原価	24,398	23,248
売上総利益	8,354	9,072
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び見本費	608	675
荷造運搬費	705	753
車両費	245	244
貸倒引当金繰入額	30	—
役員報酬	165	160
給料及び賞与	2,603	2,626
賞与引当金繰入額	478	474
退職給付費用	62	73
福利厚生費	477	470
賃借料	599	586
減価償却費	183	180
消耗品費	160	172
研究開発費	101	120
その他	1,156	1,219
販売費及び一般管理費合計	7,578	7,756
営業利益	775	1,315
営業外収益		
受取利息	5	3
受取配当金	117	44
持分法による投資利益	41	32
受取家賃	23	18
その他	26	44
営業外収益合計	215	142
営業外費用		
支払利息	5	4
為替差損	7	25
賃貸借契約解約損	9	—
その他	2	10
営業外費用合計	24	39
経常利益	966	1,418

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>特別利益</b>		
投資有価証券売却益	49	—
受取保険金	18	—
特別利益合計	67	—
<b>特別損失</b>		
持分変動損失	—	1
投資有価証券売却損	91	—
災害による損失	—	4
特別損失合計	91	6
税金等調整前四半期純利益	942	1,412
法人税、住民税及び事業税	400	489
法人税等調整額	△39	30
法人税等合計	361	520
四半期純利益	580	892
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△9
親会社株主に帰属する四半期純利益	579	901

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	580	892
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△201	△185
土地再評価差額金	1	—
為替換算調整勘定	△1	1
退職給付に係る調整額	△63	△26
持分法適用会社に対する持分相当額	2	△1
その他の包括利益合計	△262	△211
四半期包括利益	318	680
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	320	693
非支配株主に係る四半期包括利益	△2	△12

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	942	1,412
減価償却費	641	580
投資有価証券売却損益(△は益)	42	-
受取保険金	△18	-
災害損失	-	4
貸倒引当金の増減額(△は減少)	29	△12
賞与引当金の増減額(△は減少)	73	26
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△47	△54
受取利息及び受取配当金	△123	△47
支払利息	5	4
持分法による投資損益(△は益)	△41	△32
持分変動損益(△は益)	-	1
売上債権の増減額(△は増加)	△4,000	33
たな卸資産の増減額(△は増加)	△6,640	895
未収消費税等の増減額(△は増加)	△344	140
仕入債務の増減額(△は減少)	3,141	683
未払金の増減額(△は減少)	△34	△195
未払消費税等の増減額(△は減少)	△229	358
その他	△437	71
小計	△7,040	3,869
利息及び配当金の受取額	118	42
持分法適用会社からの配当金の受取額	13	17
利息の支払額	△5	△4
保険金の受取額	18	-
災害損失の支払額	-	△4
法人税等の支払額	△132	△546
法人税等の還付額	30	10
営業活動によるキャッシュ・フロー	△6,995	3,385
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	1,000	-
有価証券の取得による支出	△300	△2,000
有価証券の償還による収入	4,500	300
投資有価証券の取得による支出	△3	△4
投資有価証券の売却及び償還による収入	462	95
有形固定資産の取得による支出	△538	△343
その他	△10	21
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,109	△1,931
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	148	166
短期借入金の返済による支出	△30	-
長期借入れによる収入	100	100
長期借入金の返済による支出	△22	△28
配当金の支払額	△181	△198
その他	△51	△41
財務活動によるキャッシュ・フロー	△37	△2

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	△8
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,926	1,443
現金及び現金同等物の期首残高	8,467	5,803
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,541	7,246

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	28,084	2,575	30,660	2,092	32,752	—	32,752
セグメント間の内部売上高 又は振替高	241	6	247	893	1,140	△1,140	—
計	28,325	2,582	30,907	2,985	33,893	△1,140	32,752
セグメント利益又は損失 (△)	961	△44	917	131	1,048	△272	775

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を営んでおります。
2. セグメント利益の調整額 △2億72百万円には、セグメント間取引消去 △14百万円、棚卸資産の調整額 12百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 △2億70百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	28,005	2,417	30,423	1,897	32,320	—	32,320
セグメント間の内部売上高 又は振替高	231	14	246	827	1,073	△1,073	—
計	28,237	2,432	30,669	2,724	33,394	△1,073	32,320
セグメント利益又は損失 (△)	1,474	△41	1,433	191	1,624	△309	1,315

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を営んでおります。
2. セグメント利益の調整額 △3億9百万円には、セグメント間取引消去 △22百万円、棚卸資産の調整額 △9百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 △2億76百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。